

(商品別輸入)

2009年12月4日(金)

品目	2008年度 (実績)		2009年度 (見込み)				2010年度 (見通し)		コメント		
	10億円	伸び率%	上半期 (実績)		下半期 (見込み)		10億円	伸び率%			
			10億円	伸び率%	10億円	伸び率%					
<b>総額</b>	71,872	4.1%	25,327	39.9%	27,316	9.6%	52,643	26.8%	56,607	+7.5%	
<b>食料品</b>	5,990	0.8%	2,549	21.8%	2,433	10.9%	4,982	16.8%	5,232	+5.0%	魚介類は、マグロやエビなどの高価格品を中心に需要が不振で減少継続。肉類は、豚・インフルエンザ、鶏肉在庫の積み上がり、牛肉需要の低迷などで総じて低調に推移。とちもこしは、前年の価格大幅上昇の反動で、輸入額は減少継続。小麦は、価格低下を見越した買い控えにより輸入数量が減少。
魚介類	1,386	6.4%	623	16.7%	605	5.1%	1,228	11.3%	1,246	+1.4%	まぐろは、海外需要の増加によって価格上昇傾向にあるものの、国内需要が低迷し、ほぼ横ばいで推移。エビは、米国や新興市場国での需要が拡大傾向にあるものの、供給は豊富で値上がり圧力は限定的。国内消費も伸び悩み、輸入額は前年をわずかに上回って推移。サケ・マスは、景気回復とともに数量・価格ともわずかに伸び、前年を上回る。
肉類	1,071	+5.2%	451	19.5%	404	20.8%	855	20.1%	879	+2.8%	牛肉は、豪州産の相場が一時上昇するも、供給が持ち直し価格は再び低下。低価格志向による需要の低迷、豚・鶏へのシフトにより減少継続。豚肉は、インフルエンザの風評被害による需要の落ち込みと、国産品の価格が供給過剰によって下落した結果、輸入量の引き合いが低迷。鶏肉は、在庫の積み上がりにより輸入数量・価格とも大幅に低下していたが、在庫調整の進展により年度後半にかけて持ち直しの動き。
原料品	5,008	10.9%	1,627	44.8%	1,900	7.7%	3,527	29.6%	4,280	+21.3%	鉄鉱石は、粗鋼生産低迷など国内需要不振のため、数量・市況共に下落し大幅減。非鉄金属類は、通年では減少するも、下半期は市況上昇により増加。
鉄鉱石	1,330	+24.4%	393	45.8%	395	34.8%	788	40.8%	950	+20.6%	下半期数量は、上半期輸入量と2010年度上半期輸入量(0.6億トン)の間隔(0.55億トン)並。
非鉄金属類	1,391	32.6%	478	45.5%	628	+22.3%	1,107	20.4%	1,350	+22.0%	下半期の銅鉱石は、数量は上半期から横ばい、市況は中国の旺盛な輸入およびドル安、投機資金の流入、世界経済回復期待等を受け上昇。
鉱物性燃料	24,481	+10.1%	6,850	55.7%	7,843	13.0%	14,693	40.0%	15,729	+7.0%	上半期は、2008年度上半期の資源価格高騰の反動から原油及び粗油の輸入金額が6割近(減少)したほか、LNGや石炭等、他の商品の輸入も大幅に減少し、鉱物性燃料全体の輸入は55.7%減。下半期は、上半期に見られた価格高騰の反動減の影響が弱まり、資源価格も緩やかに上昇する影響から、輸入金額の下落幅は縮小。しかし、依然として実需は弱く全体的に数量ベースでは横ばい/微減。
原油及び粗油	13,640	0.4%	3,810	59.3%	4,465	+4.1%	8,275	39.3%	8,745	+5.7%	上半期の原油価格は、前年度の原油価格の高騰の反動から前年同期に比べ大幅に下落。上半期の輸入数量は減少したが、下半期も国内景気の低迷等を反映し微減。金額ベースでは、輸入価格の上昇により、下半期は微増。
石油製品	2,001	5.6%	596	55.9%	773	+18.9%	1,368	31.6%	1,440	+5.2%	上半期は、前年度の原油価格の高騰の反動に加え需要の減退もあいまって55.9%の大幅減。下半期の資源価格は緩やかに上昇、国内の石油製品需要は引き続き減少しており、石油会社、石油化学会社共に稼働率を下げざるを得ない状況で、電力用重油についても経済停滞の影響で需要は激減(ただし下半期は前年の大幅な輸入減少の反動により増加)。
LNG	4,498	+29.5%	1,198	49.3%	1,398	34.6%	2,596	42.3%	2,790	+7.5%	上半期は、2008年度の資源価格高騰の反動から、金額で49.3%減。数量ベースでも需要減少を背景に割前年の減少。下半期も、上半期に比べ実需は横ばい/微減。輸入単価は、原油価格との関連が強くなり、上昇。
LPG	994	9.2%	270	54.4%	344	14.3%	614	38.2%	680	+10.7%	上半期は、数量ベースで割減であったが、金額では資源価格の下落を背景に54%減。今後の原油価格は緩やかな上昇を見込む。数量ベースでは、景気低迷によって特に産業部門の需要が低迷し、さらに減少。
石炭	3,253	+82.4%	968	44.5%	860	43.0%	1,828	43.8%	2,014	+10.2%	需給面および金融面から、原料炭、一般炭共に、価格は大幅に下落。下半期は、2010年にかけて鉄鋼の対中輸出の鈍化が見込まれ、内需も弱い。大口電力も回復鈍く、下半期は数量も減少継続。
化学製品	5,407	2.0%	2,282	23.0%	2,347	3.9%	4,628	14.4%	4,974	+7.5%	2008年度後半に自動車等の生産が大きく落ち込んだことから国内の化学品の需要も低迷していたが、2009年度に入り自動車や電気機械などの生産が回復に向かう中で化学品の需要も高まってきており、2009年度後半も輸入は緩やかに持ち直しつつあり。
原料別製品	6,688	8.8%	2,090	47.7%	2,350	12.6%	4,440	33.6%	5,500	+23.9%	鉄鋼輸入は、リーマン・ショック後の国内需要低迷を受け大幅に減少し、低迷は当面継続。一方、非鉄金属は市況回復を受け、下半期には下げ止まりの動き。その他の製品も、下半期には自動車生産回復等を受け下げ止まりつつあり。
鉄鋼	1,122	+16.3%	205	68.8%	201	57.0%	406	63.9%	456	+12.4%	鉄鋼輸入は、国内需要の低迷や国内市況が盛り上がりにつけて、年初以来、前年を大幅に下回る水準で推移しており、この傾向は、当面続く。
非鉄金属	2,147	18.0%	481	67.0%	650	5.9%	1,131	47.3%	1,550	+37.0%	アルミは、上半期は国内景気低迷により大幅減となったが、下半期にエコカー減税などの経済政策効果を受け持ち直しの動き。白金族の金属は、リーマン・ショック以降、市況低迷および需要減退から、上半期は大幅に減少。下半期は市況回復を受け持ち直し。
織物用糸・繊維製品	683	6.6%	300	18.4%	308	2.1%	608	10.9%	661	+8.7%	自動車、電気機器などの部品、包装用などの産業用途が、急落、リネンなどの最終消費財も、国内景気悪化のため減少。価格も、産業用、最終消費財を問わず下落傾向。
非金属鉱物製品	626	12.6%	243	32.5%	263	1.2%	506	19.2%	532	+5.2%	ガラス及び同製品は、上半期は国内景気低迷により、自動車、建設向け需要とも不振。下半期は自動車向けを中心に徐々に持ち直しの動き。
一般機械	5,539	14.3%	2,092	32.8%	2,069	14.6%	4,161	24.9%	3,948	5.1%	電算機類は、ネットブック/パソコンなど、PCおよび周辺機器の価格低下傾向は継続。上半期は、景気悪化に加え、後半にはウインドウズ7発売前の買い控えも生じた。下半期は、ウインドウズ7効果はあるが、年度を通じた数量への貢献は限定的。半導体等製造装置等、一部に回復の兆しもあるが、工作機械や建設・鉱山用機械の一部は回復し難い。
電算機類 (含周辺機器)	1,636	11.6%	627	28.3%	659	13.5%	1,286	21.4%	1,231	4.3%	ネットブック/パソコンなど、PCおよび周辺機器の価格低下傾向は継続。上半期は、景気悪化に加え、後半にはウインドウズ7発売前の買い控えも生じた。下半期は、ウインドウズ7効果はあるが、年度を通じた数量への貢献は限定的。
電気機器	7,737	16.9%	3,272	25.5%	3,723	+11.3%	6,995	9.6%	7,264	+3.8%	トランジスタ等は、価格の下げ止まりと、半導体製品の引き合い増加により、増加で推移。IC製品は、価格の下げ止まりが継続。ただし、低価格品の引き合いが強く(上値は限定的)、また景気回復に伴い輸入数量は緩やかに増加。音響・映像機器、家庭用電気機器等は、エコポイントの対象期間が2010年12月末(以降)であり、期限前の駆け込み需要が見込まれる。2011年7月の地デジの完全移行を前に、地デジ対応テレビの需要も見込まれる(2009年9月時点の地デジ対応機器普及率は69.5%)。
半導体等電子部品	2,133	24.2%	944	27.4%	1,033	+24.0%	1,977	7.3%	2,040	+3.2%	トランジスタ等は、価格の下げ止まりと、半導体製品の引き合い増加により、増加で推移。IC製品は、価格の下げ止まりが継続。ただし、低価格品の引き合いが強く(上値は限定的)、また景気回復に伴い輸入数量は緩やかに増加。
輸送用機器	2,038	21.0%	682	44.4%	744	8.2%	1,426	30.0%	1,588	+11.3%	自動車は、金融危機に伴う国内需要の低迷で激減。エコ減税の対象外となる車種が少ないため、回復見込みも薄い。航空機類は、新型機の納入が遅れたため、前年並にとどまる。
自動車	659	28.4%	208	45.6%	248	9.9%	456	30.7%	468	+2.5%	金融危機に伴う国内需要の低迷で、激減。エコ減税の対象外となる車種が少ないため、回復見込みは薄い。
航空機類	535	23.4%	182	47.9%	196	+6.3%	379	29.2%	520	+37.2%	新型機の納入が遅れたため、前年並にとどまる。
その他	8,986	8.8%	3,881	18.2%	3,908	16.7%	7,790	13.3%	8,092	+3.9%	精密機器類は、液晶デバイス・計測機を中心に需要低迷が継続。その他雑貨類は、プラスチック製品の価格低下、玩具・遊戯用具の数量減少が継続。
衣類・同付用品	2,624	4.5%	1,203	11.2%	1,193	6.0%	2,396	8.7%	2,454	+2.4%	景気の影響を受けやすい紳士服の不振に比べ、ヒートテックなど機能性衣料が売れた女子用や下着は数量増。ただし、価格低下圧力が強く、金額ではいずれも前年割れ。
製品輸入	36,393	11.4%	14,301	30.0%	15,140	7.7%	29,440	19.1%	31,366	+6.5%	(製品輸入比率5.9%、前年比5.3ポイント上昇)

\*金額は億円単位を四捨五入。2009年度上半期の実績は9桁速報ベース

\*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している